

町と親しむためのフットパス

黒松内町フットパスボランティア（黒松内町）

フットパスは 19 世紀にイギリスで生まれた「歩く小道 (Foot Path)」のこと。ゆっくり歩いて、地元の自然や文化、歴史に親しもうという発想である。途中にある店でスイーツを食べたり、パブに立ち寄ってビールを楽しんだり、その町そのものをスローなペースで体験できる道。

こうしたフットパスが、北海道をはじめ全国に広がりつつある。黒松内町では、北限のブナ林を活かそうと 2004 年からフットパスに関する活動を行っている。2010 年 5 月には全道大会、10 月には日本フットパス協会のイベントが行われるなど、全国でもその名が知られている。

「ここからの眺めが最高でしょう。町が一望できますよ」

黒松内町フットパスボランティアの新川幸夫会長に、チョボシナイコース（全長約 10 km）を案内してもらった。

このコースは、廃道同然だった町道を地元住民やボランティアが手作業で整備した道だという。黒松内町における第 1 号のフットパスコースで、道の駅にある「トワ・ヴェールⅡ」（町営手作り加工センター）を出発して、川沿いに歩き、標高 190m の東山の山頂

を越えて市街地に向かう景観の変化に富んだコースである。「トワ・ヴェールⅡでは、焼きたての手づくりパンが味わえますよ。それに特産品や地元の採れたて野菜などを買えます。コースでは畑や牧草地を眺めながら、ゆっくり散策できます。途中で化石が出る場所もあつたりしますし、いろいろな楽しみ方ができますね」と、新川会長は説明する。

その他、寺の沢川沿いを歩き、途中に黒松内温泉がある「寺の沢川コース」（2 km）、宿泊施設の「歌才自然の家」を出発して、森林公園、ブナセンターを経由する「西の沢コース」（10 km）、「歌才自然の家」を周遊する「歌才森林公園コース」（4 km）など合計 4 コースが設定されている。



チョボシナイコースから見下ろした黒松内町の風景

フットパスと健康ウォーキングとの違いについて、新川会長は「フットパスは、あくまで町づくりの一環」だと主張する。フットパスを整備することによって、歩く人が健康になってくれ、「そのうえ、町を気に入って来てくれるようになれば最高でしょう」と、語っている。

■「歩く」スローな視点から

黒松内町は、1928年（昭和3年）に国の天然記念物に指定された「自生北限の歌うたブナ林」を有する自然豊かな町。こうした環境を活かして、ヨーロッパの農村のように、都市の人々を招き入れ交流を図る体験型・滞在型の町づくりに同町では取り組んできた。

宿泊施設やキャンプ場、ブナの資料展示・実習工房施設を有したブナセンター、道の駅など、拠点となる交流施設を整備した。またブナ林観察会、「かんじき」を履いてのソフトボール大会など、特徴あるイベントや体験学習などを企画している。こうした試みによって、1993年に約4万人だった交流人口（観光客）が近年は約15万人にも増加した。

しかし、交流人口の多くは「通過型ドライブ観光」に過ぎない。黒松内町の良さを本当に知ってもらうためには、車では見過ごしがちな黒松内町の自然や環境のすばらしさを「歩く」スローな視点から、満喫して欲しいとの声が挙がっていた。

こうした背景があり、2004年1月から本格的に黒松内町でフットパスの実現につい

て検討された。同年3月には、地元住民の参加が不可欠であると、町広報誌でボランティアを募集。同年6月に第1回ボランティア会議が行われた。さらに、事務職員を英国フットパスツアーに参加させるなど、同町では積極的に活動を支援した。

その年の10月にはチョポシナイコース（全長約10km）が完成、第1回歩き初めイベントが行われた。その後、年数回フットパスのイベントが行われ、2008年には「フットパス国際フォーラム」が黒松内で開催（119人参加）されるなど、全国的にフットパスの先進地として関係団体から注目されるようになった。

同町役場・環境政策課の中嶋貴久主任によれば、設立当初は町づくり推進委員会が調査研究費という項目で、同フットパスに拠出していたが、2010年から町の事業として同フットパスボランティアに助成しているという。平成20年度および平成21年度には農林水産省所管事業「農山漁村地域力発掘モデル事業」に採択されて、農水省からの助成も受けている。会員は設立当初が17人、現在は28人となっている。



新川会長（左）、中嶋主任（右）

現在の課題について、新川会長は「いかに若い人を惹きつけられるか」と語気を強める。歩くイベントに参加したり、「スロー」なスタイルでフットパスを楽しもうとしたりする人のほとんどが、年配の方だという。「若い人に魅力を感じてもらえるように、特色ある食べ物や、陶芸・木工などの物作り体験などを、もっと取り入れたい」と意気込んでいる。

■ ブナの北限の里として、ふさわしい活動

黒松内町では、フットパスの他にも自然環境を守ることで魅力ある町づくりに繋がりたいと活動している団体がある。「黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会」もその一つ。新川会長は同プロジェクトの実行委員長でもある。

このプロジェクトは、2007年度から5カ年計画で、町内で集めた種子を苗床に植えて、その若木を黒松内岳内に植樹、ブナ林の再生を目指している。過去3年間は発芽後の5月に霜で枯れてしまうことが多かったが、今年（2010年）は霜対策をしっかりと行ったことで、苗は順調に育っている。「昨年秋にまいた約2000粒のうち、9割以上が育っている」（黒松内町ブナセンター学芸員・齋藤均さん）という。

現在、財団法人北海道環境財団をはじめ、サッポロビール株式会社、郵便事業株式会社、北海道森林管理局、ライオンズクラブなどの協力で同事業を実施しており、委員会の会員

は30人ほど。

役員の小谷孝夫さんは黒松内銘水株式会社の社長。「水の名産地にはブナ林がありますから、ブナを守ることで水を大事にしたいと思っています」と同プロジェクトに参加した理由を語っていた。また、黒松内ぶなの森自然学校代表の高木晴光さんは、「ブナ林は、町の財産であるし、自分自身のフィールドでもあるので、出来ることはやっていきたいと思っています」という。



ブナ林再生プロジェクト実行委員会の役員会

新川会長は、「ブナ林の再生も、自然を楽しむフットパスもここ『ブナの北限の里』としてふさわしい活動だと思っています。通過型の観光から、滞在型の観光ができるような拠点を作って、その点を線で結べるような町づくりができれば」と強調していた。

■ 連絡先

〒048-0192 寿都郡黒松内町黒松内 302 番地 1

黒松内町環境政策課内

黒松内町フットパスボランティア

TEL : 0136-72-3374 / FAX : 0136-72-3316

Email : eco@town.kuromatsunai.hokkaido.jp